公益社団法人　大津市シルバー人材センター
令和２年度　事業計画

第１　大津市シルバー人材センターを取り巻く情勢

政府が昨年末に発表した「令和２年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」では、「令和２年度の我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続き、経済の好循環が進展する中で、通商問題や中国経済の先行きなどのリスクがあるものの内需を中心とした景気回復が見込まれる。」としています。また、みずほ総合研究所の内外経済見通し（令和２年２月 20 日）では、パンデミックが宣言された新型コロナウイルスが６月に終息する前提で、「令和２年度の日本経済は、輸出、内需ともに伸びは弱く、GDP 成長率は０％台前半の低い伸び」と予想しています。

大津市の予算編成要綱では、令和２年度の経済動向について「県内全産業を通じて減益見込とされている中、消費税引き上げに伴う消費活動の変動も考慮すると、予断を許さない状況」としています。

一方、大津市の高齢化率は、令和２年１月１日現在で 26.6％となり昨年度比 0.3％の増と着実に上昇しています。高齢期の生活の質の向上と地域社会に貢献するシルバー事業への市民からの期待は益々強くなるものと想定されますが、このような厳しい経済見通しの中で、堅実で、着実なセンター経営を図る必要があります。

第２　基本方針

（１）基本的な考え方

厳しい経済見通しの中、経常収益は、過去の実績を個々に精査し受注可能と認められる事業について計上しました。また、経常費用については収益見合いで計上し、中長期経営事業計画に定める事業であって、予算が確保できない事業は、今後の受注状況を見ながら執行していきます。

（２）令和２年度重点事業の推進

中長期経営事業計画に沿って、令和２年度における重点事業として、「会員数の拡大」、「就業機会の拡大」、「就業率の向上」、「安全適正就業」および「収益事業の方向性の検討」の５項目を掲げ、積極的に取り組みます。

①　会員数の拡大

昨年度、会員数の拡大を図るため新聞折り込みの実施、入会説明会の

充実や拡充等を実施してきました。結果として、中長期経営事業計画に定める数値目標を 50 人上回る 1,585 人の会員数を数えることができました。引き続き、実施した事業の費用対効果等を勘案し、会員数の拡大に向けた取り組みを行います。特に、地域委員会の協力を得て実施した出張入会説明会は参加者も数多く、効果的な取り組みであり、充実強化します。

② 就業機会の拡大

景気が低迷していくとの予測の中で、さらに営業活動の充実が必要となります。新規顧客の獲得や従前からの顧客の確保に加え、公共団体等が実施する入札・見積依頼に対して積極的に参加します。

③ 就業率の向上

中長期経営事業計画に定める数値目標の中で、令和元年度の就業率が目標を達成できませんでした。達成できなかった理由として、会員ご自身の事情、センターの提供する仕事の満足度およびセンターの分かち合い就業に関する認識の甘さなどが考えられますが、分かち合い就業の推進で就業率を向上していくための具体的な取り組みを強化します。

令和２年度は、請負額が大きい除草作業に従事できる会員を増やすための研修会を実施します。実施に際しては、会員の皆さんに除草作業に関する実践的な様々なノウハウを学んでいただくとともに、研修会を通じて会員同士の親睦が図られるよう留意します。

この除草研修会の実施結果を見て、剪定作業や清掃作業に係る研修会の開催も検討します。

④ 安全・適正就業の推進

安全就業については、機会ある毎にその意識の周知を図ります。

また、毎年実施している安全・適正就業推進大会の開催については、300 名以上の会員が参加されるよう周知の徹底と大会内容の充実に努めます。なお、「安全・適正就業強化月間（７月）」には、安全パトロールの実施とともに安全意識高揚の徹底を図ります。

⑤ 収益事業（訪問介護事業）の方向性検討

５年後の令和７年には約600万人の団塊の世代が後期高齢者(75歳)となり、国民の 3.3 人に１人が後期高齢者という超高齢社会を迎えることになります。労働人口が減少していく中、社会保障費の増大に加え医療・介護分野の整備が急務と言われています。

このような中、当センターの訪問介護事業は、年々事業収益が落ち込み、令和元年度決算は黒字決算となったものの、最盛期の約 60%程度の事業収益を示しています。

これからの超高齢社会の要請にしっかりお応えするためにも、当センターの訪問介護事業の様々な課題を明らかにします。その上で、課題を解決するための対応方策を検討します。

第３　事業の展開について

（１）中長期経営事業計画の推進

中長期経営事業計画の的確な推進を図るため、令和元年度に設置した「進行管理委員会」を開催し、計画の全体的な進行管理に努めます。

（２）円滑な地域委員会活動のための支援

地域委員会は地域に根ざすシルバー活動団体として、大変重要な組織です。地域委員会活動を支援する方策を地域委員長会議の議論を経て、検討します。

（３）広報活動の強化・充実

広報委員会の議論を経て、ホームページのリニューアルを始め、定期広報物や各種パンフレットを作成し、効果的で解りやすい広報に務めます。

（４）適正かつ円滑な請負事業の執行

職群班長会議の議論を経て、安全・適正就業の推進と事業実施に係る諸課題の解決に努めます。

（５）訪問介護事業の方向性検討

福祉部会の議論を経て、訪問介護事業の方向性を検討します。

（６）会員相互の親睦事業の推進

会員相互の親睦が図れるようグラウンドゴルフ大会および親睦旅行を実施します。また、趣味を生かすサークル活動を応援します。

（７）賛助会員の獲得

シルバー事業にご賛同いただく賛助会員（シルバー応援会員）を獲得し、広くシルバー事業の啓発を行います。賛助会員募集のための方策を検討します。

（８）適正な事務処理の推進

事務局の事務処理を見直し、事務の的確化や効率化を図ります。